



Celebration



【8月7日】
ペルー大統領来日記念レセプションにてディナ・ボルアルテ大統領（右）と松澤建FEC理事長



【8月27日】
イスラエル国会議長来日記念レセプションにてギラッド・コーヘン駐日大使（右）と松澤理事長



【9月2日】
オーストラリア連邦総督来日記念レセプションにてジャスティン・ヘイハースト駐日大使（右）と松澤理事長



【9月4日】
パナマ大統領来日記念レセプションにてウォルター・コーエン駐日大使（右）と松沢聡FEC常務理事

「最後まで自分らしく生きる」社会の実現を

第294回国際研究会 清家篤日本赤十字社社長

民間外交推進協会（FEC）は9月4日、清家篤日本赤十字社社長をお迎えして「生涯現役社会に向けて：健康寿命の延伸で高齢者の社会参加を促進する」をテーマに第294回国際研究会を明治記念館にて開催した。松澤FEC理事長の開会挨拶の後、清家社長が講演を行い、最後に質疑応答が行われた。

【講演要旨】

日本の社会は今、かつてどんな社会も経験したことのない少子高齢化を経験している。人口に占める65歳以上の高齢人口比率は29%を超え、世界でも最も高い水準にあり、今後さらに上昇する。この少子高齢化は今後の社会経済に多大な影響を及ぼす。その中でも75歳以上の後期高齢者の増加はとくに顕著である。これは医療・介護サービスの需要増を意味し、社会保障制度の持続可能性に大きな影響を及ぼす。

高齢化の一因は平均寿命の著しい延伸にある。日本人の平均寿命は戦争直後の1947年には男女ともに50代だった。現在では男性82歳、女性87歳に達している。この長寿化は、栄養状態や衛生環境の改善、住宅環境の向上、そして医療の進歩など、日本社会全体の発展の成果だ。つまり、日本の高齢化は、経済的・社会的成功の結果である。

一方で、少子化の進行も高齢化を加速させる要因となっている。戦後すぐは4.5を超えていた合計特殊出生率は、現在1.2を下回る水準で推移しており、子



どもの数が減ることで高齢者の割合が相対的に増加している。少子化の背景にあるのも経済発展だ。農業など自営業中心の貧しい時代の子どもはたくさん生まれるが育つのも少数という「多産多死」の状況から、産業化した豊かな社会での子どもは少なく生んで育つ「少産少死」への人口転換である。

ただ日本の社会でさらに少子化を加速化させたのは性別役割分担の固定観念である。女性の高学歴化と労働参加の進む一方で、家庭内の負担は相変わらず女性に偏っており、出産・子育てが女性のキャリアにマイナスとなる。そのため、結婚や出産を選ばない女性も増えている。結婚や子育てと家庭生活が両立しにくいことによって、人口減少は加速している。

高齢化と少子化という二つの変化は、社会保障、労働力、経済成長など、あらゆる分野に影響を及ぼす。しかし、高齢化自体が問題なのではない。真の課題



は、高齢化すると困るような社会制度、人々の意識のありかたであり、高齢になっても活躍できるような条件を整備すれば問題は解決する。若い人口が減少する中で、従来の「高齢者＝支えられる側」という構図は見直していくということである。

このような状況において重要なのは、健康寿命の延伸だ。ここで言う健康寿命とは、健康上の問題で生活に支障のない状態での生涯期間ということである。単なる長寿ではなく、健康で活動的な期間を延ばすことは、個人の生活の質を高めるだけでなく、社会全体の持続可能性を高める鍵となる。高齢者が健康であれば、就労や投資、消費、地域活動など、多様な形で社会に貢献することが可能となる。

つまり、医療は単なる消費ではなく、健康寿命を伸ばすことで就労を可能にし、投資や消費を増やし、地域での活動を活性化する、といったことを可能にする「投資」として捉えるべきである。予

防医療や早期治療によって重症化を防ぎ、労働損失や介護負担を軽減することで、経済的なリターンを期待できる。医療への適切な投資は、経済成長に寄与するということである。

一人ひとりの生涯を通じて健康であることは、本人にとっての幸せであると同時に、社会にとっても大切な事となる。高齢者を「支えられる存在」ではなく、「社会を共につくる担い手」として位置づける視点の転換である。人生100年時代においては、長い人生をどう生き活きと生きるか、高齢者の力をどう活かすかは、これからの社会づくりの鍵となる。

生涯現役社会の実現は、経済的合理性だけでなく、人間の尊厳にも深く関わる問題だ。誰もが「最後まで自分らしく生きる」ことのできる社会の実現こそ、真に豊かで持続可能な社会である。年齢にかかわらず個人の意思、能力を最大限に活かすことのできる「生涯現役社会」の実現によって、日本は後から高齢化する世界のよいお手本ともなるだろう。

人間を健全に導く「芸術と自然」

FECの松澤建理事長は8月25日、ノーベル生理学・医学賞受賞者である大村智北里大学特別栄誉教授のお招きで埼玉県北本市にある北里大学メディカルセンターを訪問し、同病院の絵画コレクション並びに併設の大村記念館を見学し、大村博士と対談を行った。

病院と美術館の絵画コレクション

松澤理事長 本日は病院内に飾られている素晴らしい絵画のコレクションと、大村記念館所蔵の絵画コレクション、そして王森然記念室を大村先生直々にご案内いただき、誠にありがとうございました。私は先生との55年のお付き合いを通じて、先生の偉大さ、人間としてのやさしさを実感し、大いに見習うべきだと思っております。先生の偉業とその素晴らしいさは日本人の誇りであり、日本にいる世界各国の大使たちにも紹介していきたいと考えております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

大村博士 本当に遠いところまで、暑中よくお越しいただきました。

一度は松澤さんにこのメディカルセンターと王森然記念室をご覧いただきたいと思っておりましたが、それがようやく実現し、嬉しく思っております。

松澤さんとはもともとゴルフ仲間としていろいろ一緒することが多く、松澤さんが社長を務められた保険会社の前の社長が山梨県のご出身で、佐野さんという非常に良い方でした。その方にいつも励ましていただいておりますが、その後を継がれたのが松澤さんです。会社は今では損保ジャパンと呼ばれていますね。ゴルフ仲間というのは、いろいろな場面で何でも話せますし、何かあれば「松澤さんに聞いてみよう」となることも多い。私はどちらかといえば狭い範囲で、しかも外国での仕事が多いのですが、だからこそ経験豊富で視野の広い松澤さんのような方は本当に頼もしい存在です。

北里大学メディカルセンターと「ヒーリングアート」

松澤 恐縮です。以前、荏崎大村美術館に伺った際も、その膨大なコレクションに驚きましたが、先ほどご案内いただいた病院のロビーや廊下に飾られている絵画の数々も素晴らしかったです。この点について少し詳しくお聞かせください。

大村 イベルメクチンの発見によりノーベル賞を受賞しましたが、それ以前に共同研究先の米製薬会社メルクから北里研究所に特許料が入る契約をしておりました。これにより北里研究所の財政的な危機を救うと同時に、新しい事業を展開することになりました。その第一歩が今日ご覧いただいた北里大学メディカルセンターです。周りに広大な自然観察公園があることで、「芸術は自然とともに一体となって人間を健全に導く」という言葉を思い出し、近代医学に自然と芸術を融合させた「ヒーリングアート」というコンセプトで運営することにしました。

松澤 病院にいらっしゃる方はご本人

はもとより、付き添いのご家族も不安な気持ちになっていると思います。このような素晴らしい作品の数々は、そうした方々の心を癒やし、元気づけてくれるものだと思います。大村記念館に所蔵されている洋画や水墨画のコレクションにも圧倒されました。

王森然記念室の誕生

大村 洋画の方ではアメリカで活躍された岡田謙三氏の作品が多数展示されていますが、これは岡田氏の奥様から寄贈されたものです。そして今日ぜひご覧いただきたいかったのは、この王森然記念室です。この病院に飾られた絵があったからこそ、この記念室につながっているのです。

中国の「王森然学術研究会」の副会長を務めていた王濟夫先生一行が来日し、この病院を見学した際に絵画をご覧になり、非常に感動されました。その話を王森然先生の奥様に伝えたところ、奥様から「王森然の遺された作品を持っているので差し上げたい」というご連絡をいただき、今では40点もの作品があります。中国の芸術関係者が見たら驚くほどの数です。私の希望としては、在日中国大使館の方々をぜひこの王森然記念室にご招待したいと思っております。

中国との学術交流の始まり

松澤 大変素晴らしいエピソードです。当協会は駐日中国大使とも親しくしております。大使にはぜひこの話を伝えたいと思います。先生が中国との交流を始められたきっかけなどもお聞かせください。

大村 私が初めて中国に行ったのは1981年です。中国医学科学院副院長の沈基震先生らに招かれ、同研究所と上海医薬工業研究院で「抗生物質の研究に関して」の講演をしたり、技術指導をしたりしました。両研究所で計7度の討論会が行われるなど、密度の高い学術交流となりました。当時の中国はまだ発展途上で、日本に学びたいという思いが強く、指導を依頼されたのです。そこから毎年のように交流が始まり、中国から研究者を北里研究所に迎え入れ、宿舎を用意して1年、2年と滞在できるようにしました。また、私自身は何度も中国を訪れ、瀋陽薬科大学などで講義しました。記念に植えた木が今もキャンパスに残っていると思います。

さらに、中国の研究者たちを日本に招き、研究所で研修してもらったこともありました。これまで40～50人を受け入れてきました。また、王森然研究会との出会いがありました。この研究会は習近平主席の父親である習仲勲氏や、著名な書画鑑定家などが集う学術的に優れた会でした。私はそこから多くを学び、先ほど



大村^{さとし}智 1935（昭和10）年、山梨県韮崎市生まれ。北里大学特別栄誉教授、学校法人女子美術大学名誉理事長、荏崎大村美術館館長。日本学士院会員。米国ウェスレーアン大学マックス・ティシュラー名誉教授。全米科学アカデミー（NAS）外国人会員、フランス科学アカデミー外国人会員、ドイツ科学アカデミー・レオポルディナ会員。微生物の生産する天然有機化合物の研究を専門とし、50年以上の研究生活を通して約520種類の新規化合物を発見。うち26種類が医薬、動物薬、研究用試薬として実用化され、感染症などの予防や撲滅、さらに生命現象の解明などに貢献している。そのうちの1つであるイベルメクチンは、オンコセルカ症（河川盲目症）やリンパ系フィラリア症といった寄生虫感染症の多くを予防・治療する特効薬となった。その業績が評価され、2015年、イベルメクチンを共同で開発した米国メルク社のウィリアム・キャンベル博士とともにノーベル生理学・医学賞を受賞。



大村記念館の絵画コレクションを見学

お話しした王森然先生の奥様に、私の取り組みをお知らせいただいた王濟夫先生とも交流が深まりました。王濟夫先生とはそのご縁で深くお付き合いをさせていただき、本当の友達とはこういう関係なのだなと深く実感しました。

残念なことにその後、王濟夫先生が台湾で活動中に事故で急逝されました。北京での葬儀には3000人以上が参列し、私も駆けつけました。その後、奥様にお会いし何か形見にいただきたいとお願いしたところ、王濟夫先生の書をいただきました。王濟夫先生がいかに中国で敬愛されていたかを強く感じました。また、先生の教え子や関係者が次々と私を訪ねて



きてくれるようになり、中国との縁がますます深まっていきました。



日本人として「近くの隣人」と仲良く

上海交通大学との縁

こうした友人の一人に、上海交通大学との交流を深めている人物がいます。上海交通大学といえば、中国でも有数の名門大学です。その方は絵画を通じて大学とつながりを持っていて、私もその縁で大学に招かれました。そこで講義や展示に関わる機会があり、非常に有意義な交流を重ねることができました。その結果、私は上海交通大学から名誉博士号の栄誉をいただきました。文化や芸術を通じた交流が学問的な評価にもつながり、互いの国の理解を深める大きな力になったと思っています。

政治ではなく隣人としての中国交流

松澤 なるほど。先生の中国との交流は長く深いものですね。

大村 ここが一番大切な点なのですが、私が中国との交流に力を注ぐのは、決して政治的な理由ではありません。

一人の日本人として、隣国である中国の人々と文化的・人的なつながりを深めることが大切だと考えているからです。祖母からも「遠い親戚より近くの隣人を大事にしてください」とよく言われました。まさに中国は「近くの隣人」であり、隣人として仲良くしなければならない存在です。その思いを胸に、科学や美術といった分野で交流を重ねてきました。文化や芸術は国境を越えて人と人をつ結びつける力があります。だからこそ私は、政治や経済の駆け引きとは無縁の次元で、日本人として中国の人々と接し、互いに学び合い、信頼を築くことを続けているのです。

絵画が人を救う力

大村 ここで一つ、病院に飾られた絵画が人を励ました実例をお話したいと思います。

ある患者は脳腫瘍を患い、自らの寿命を悟って落胆していました。しかし、この病院で絵画を目にし、「このような病院で最期を迎えられるのは幸せだ」と感動し、非常に喜ばれました。

また、あるご婦人も、私の好きな画家・桜井孝美の「朝日」という大作を見て心を動かされました。彼女は家庭の事情で深く悩み、子供を抱えて生活に苦しんでいました。ところがこの絵を見て「これではいけない、頑張ろう」と立ち直す決心がついたと言います。後に桜井本人に直接会い、感謝の言葉を伝えられたそうです。

このように、絵は人の心を救う力を持っています。病院に絵を飾ることが、患者やその家族に勇気や希望を与えている。そのことを私は何度も目の当たりにしてきました。皆さんが絵画に興味をもってくださるのは本当にありがたいことです。

故郷・葦崎でのソフトパワーの実践

松澤 先生の故郷である山梨県葦崎市でのお取り組みについてもお聞かせください。

大村 私は出身地の葦崎に美術館を創

おうしんねん

王森然 Wáng Sēnrán(1895年～1984年)

中国の教育者、著述家、書画家。小学校教師から大学教授に至るまで70年以上にわたって教育に従事し、多くの後進を育成した。加えて、書や墨絵の分野においても高い評価を受け、その精神性あふれる作品は強い感銘を与えてきた。

【略歴】1895年生まれ。青年期に教育の道へ進み、小学校教員を経て大学教授に至る。

教育者として70年以上にわたり活動し、門下からは中国各界で活躍する人材が多数輩出された。著述活動も行い、教育・学術の発展に寄与。理念や思想は現在も学問的価値を有している。

芸術家としても活躍し、文化大革命の逆境期にあっても創作を続け、北京・中山公園で3度の個展を開催。多くの人々に精神的感銘を与えた。1984年没。

【芸術活動】

書や水墨画を中心に制作。作風は「繰り返す描くことで鍛錬された靈魂と熱血を紙と墨に凝縮し、世界観や生活感覚を深く内包させる」と評された。精神性と内在性に富む表現が特徴で、観る者の心に強い印象を残した。

【評価と影響】

質素な生活を送り、慈愛に満ちた人格で人々から敬愛された。

没後も教育・著述・芸術の3面にわたる功績は高く評価され続けている。

王森然の学問的意義を顕彰するため、中国では「中国王森然学術研究会」が設立された。これは郭沫若記念学術研究会、宋慶齡記念学術研究会と並び、個人名を冠した大学レベルの学術研究会の一つである。

習近平国家主席の父である習仲勲も同研究会のメンバーに



王森然先生之像を中央に

名を連ねており、王森然の学問的・思想的影響力の広さを示している。

【人物像】

教育者・著述家・芸術家として3重の側面を併せ持ち、20世紀中国における知識人の典型的存在とされる。

その人格・作品・思想は没後も中国の学術界や文化史の中で重要な位置を占めている。

④ 葦崎大村記念公園内に移築したお茶室開き
⑤ 披露茶会



設しています。地方の活性化という、どうしても経済の話に結びつけられがちですが、そうではなく、地方には地方の魅力があります。それを生かすことが一つの財産であり、もっと取り組まなければならないと考えています。

ジョセフ・ナイというアメリカの国際政治学者が「ソフトパワー」の重要性を提唱しています。私がやろうとしていることは葦崎という街にまさにソフトパワーを持ち込むことです。

美術館があり、そこに私の生家が登録無形文化財に指定され、そのうえ現代の名工が素晴らしい庭園を作ってくれました。今は葦崎大村記念公園となり、その公園の中に葦崎大村美術館と私の生家があり、さらに今度は茶室を移築いたしました。

最初は桑畑から始め、そこに温泉を作り、蕎麦屋を作るなどしながら整えてきて、今では葦崎大村記念公園となりました。今回の茶室移築が最終段階で、これも市の文化財となり、やがては国の文化

財に申請する予定です。これは荏原・畠山記念文化財団の敷地にあった茶室で、もともと非常に有名なものでした。しかし美術館を拡張するために撤去することになりました。そこで前の常務理事の方から「もったいないから何とかしてほしい」という話をいただき、私が葦崎に移築することにしました。

建物はすでに完成し、9月7日に茶室開きを行い、前日の6日に竣工式とお茶会を催しました。そのお茶会には、裏千家大宗匠（茶道裏千家前家元・千玄室氏）にお越しいただく予定でした。残念ながら大宗匠は亡くなられてしまいましたが、現在の家元が配慮してくださり、御子息の若宗匠（千宗史氏）が来てくださることになったのです。これをもって、私がこれまで描いてきた公園づくりの事業がひとまず完成することになります。これが皆さんにとってソフトパワーの一助となればよいと願っています。

松澤 千玄室氏には私も2度お目にかかったことがありますが、本当に立派な

方でした。葦崎大村記念公園は絵画だけにとどまらず、日本文化の象徴でもある茶道に触れることができるのは大変素晴らしいことです。

大村 葦崎大村美術館は今度、NHKの日曜美術番組『アートシーン』でも取り上げられることになっています。そこでは女流作家の優れた作品が数多く紹介されます。文化勲章受章者や文化功労者など、日本の女性画家の代表的な作品が集まっており、女性の美術館としては日本唯一です。いずれ広く知られれば、非常に大きな存在になっていくでしょう。美術館は地域の名物となり、まさにソフトパワーの拠点となるのです。

それを展開していくのは若い人たちの力です。葦崎では私が中心となって整備を続けていますが、若い世代が主体となって動いてくれています。今回の茶室はすでに市の文化財に指定され、今後は県や国の文化財になることを夢見ています。

4面に続く

「実践躬行」モットーに 精神貫く

3面から続く

大村 この茶室を建てたのは畠山一清という人物で、荏原製作所、つまり有名なポンプの会社の創立者です。彼は蕪崎出身で、阪急東宝グループの創業者・小林一三と親しく、茶友でした。畠山一清は七尾の畠山藩の城主の末裔で、戦国時代には武田信玄と戦った上杉謙信に滅ぼされた家柄の出です。そんな背景を持つ人々が関わった茶室を蕪崎に移したことは大きな意味があります。

卒寿と「実践躬行」の精神

松澤 なるほど。その茶室も小林一三を通じて蕪崎市に縁があるんですね。

大村 はい。このように、私は「ソフトパワーを蕪崎に」という思いで活動を続けています。東京の新宿駅から電車で1時間30分ほどで来られる距離で、美術館を巡り、蕎麦を食べ、温泉に入り、帰途につくという過ごし方ができる場所として完成しつつあります。

最近では美術館に上村松園の作品も収蔵しました。私はこれで絵の収集は一区切りと考えていますが、今後も必要に応じて補足していきたいと思います。世界を見ても、女性画家を中心にした美術館はまれで、日本では、ここだけです。アメリカ・ワシントンにあるナショナル・ギャラリー・オブ・ウーマン・アートと並ぶ存在だと思っています。私はライバルだとは思いますが、内容では我が美術館も負けないと自負しています。

そうした活動を通じて、ソフトパワーを実践しているのです。これからも多くの人々から「あれをやってくれ、これをやってくれ」と声をかけてもらえること

はありがたいことですし、私はその期待に応え続けたいと思っています。

ノーベル賞から今年でちょうど10年目になります。私自身も7月12日に「卒寿」、つまり90歳になりました。ところが、今年の1月、2月頃から周囲が「卒寿を祝おう」と言い出してくれたのですが、急に「卒寿」と言われると、自分でも「ああ、90歳か、もう体も弱ってきたな」という気持ちになります。今はそんな状態です。

松澤 先生、一言だけ付け加えさせてください。大村先生は山梨県にとどまらない、日本にもとどまらない、世界の偉大な先生です。先生が90歳になられたことは一つの節目にすぎません。あと10年、20年は現役で続けていただきたい。今の世代の中で、この役割を果たせるのは先生しかいないと思っています。

大村 そうかもしれませんね。ただ、私は「実践躬行」をモットーにしてきました。言ったことは必ず自分でやってみせる。これが私の生き方でした。

後藤新平という人物を私は尊敬しています。彼は「欧米かぶれ」だと批判されましたが、実際には確固たる信念を持ち、実践した人です。私は彼に横井小楠の流れを見えています。そして、その学術的な支えとなったのが北里柴三郎先生でした。2人が手を取り合い、日本の衛生行政を築いた。その姿に私は影響を受けています。

後藤新平は東京市長、今でいう都知事を務めたこともあります。政治家として本来は総理大臣になるべき人だったのではないかと考えています。後藤新平のような政治家が総理大臣になっていたら、日本はもっと違っていただろうです。



大村博士（左）と松澤理事長

そういう人材の系譜を、私も少しでも受け継いでいかなければならないと思っています。

松澤 分かりやすい良いお話で、元気をいただきました。

大村 私自身は、この活動を始めてからもう長い年月が経ちました。今年はちょうど30年目を迎えます。最初は小さな取り組みでしたが、公園や美術館、温泉、蕎麦屋などが整備され、一つの文化拠点となりました。これまで応援してくださった方々に心から感謝しています。

そして今、日本学士院の欧文誌に掲載された私の論文についても思いがけない知らせがありました。イベルメクチンがコロナの治療にも有効であるということで、日本学士院編集局が調べてくれたところ、昨年1年間で38万件以上ものアクセスがあったそうです。毎月トップの閲覧数を記録し、年間を通して圧倒的に多くの人に読まれていた。これは私自身が宣伝したのではなく、第三者が調べて

くれた結果ですから、非常に嬉しい驚きでした。

もっとも、私は自分の研究を誇示するつもりはありません。ただ、実践してきたことが評価され、多くの人に役立っているのであれば、それはありがたいことです。

最後に申し上げたいのは、やはり「実践躬行」ということです。後藤新平や横井小楠の流れを継ぐように、私は学術だけでなく行動で示してきました。これからも年齢にかかわらず、できる限りその精神を貫いていきたいと思っています。

今日、こうして松澤さんに病院と記念館をご覧いただけたことは本当に嬉しい。私の活動の一端を知っていただけただけでも大きな意味があると思っています。文化も芸術も人と人とを結びつける力があります。これからもその力を信じて歩んでいきたいと思っています。

松澤 本日は貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

地域医療と先端医療を担う拠点

北里大学メディカルセンター

大村博士のイベルメクチンの特許料により建てられた埼玉県北本市にある北里大学メディカルセンターは、1989年の開設以来、地域住民の健康を守り続けてきました。約400床を有するこの中核病院は、北里研究所を母体とし、大学附属病院として高度な医療と教育・研究の場を兼ね備えています。循環器や消化器、腫瘍科、整形外科など幅広い診療科を備え、特にがんや心疾患、脳卒中の専門医療に強みを持ち、また救急医療にも積極的に取り組み、埼玉県中央地域の地域医療支援病院として重要な役割を担っています。

教育面では北里大学医学部や看護学部の実習病院として医療人材の育成に貢献。臨床研究や新しい医療技術の実践も行い、学術的な発展と地域医療の橋渡しを果たしています。

さらに、地域がん診療連携拠点病院とし

て緩和ケアやリハビリにも力を注ぎ、患者の生活の質向上を重視する姿勢が特徴的です。

対談記事で大村博士が触れられているように学校法人北里研究所は、近代医学に自然と芸術を融合させた「ヒーリングアート」をコンセプトにした試みを続けられています。北里大学北里研究所病院（白金キャンパス）および北里大学メディカルセンター（北本キャンパス）を中心に関連施設内にて絵画を展示しており、「絵のある病院」として広く知られています。

医療機能の充実を図ると同時に人間性の尊重という視点から病院特有の雰囲気を持拭し、対談記事にもあるように大いに効果を発揮しています。この「絵のある病院」というコンセプトに賛同した著名な画家の方々からの寄贈を含め本コレクションは約1700点を数えます。



北里大学メディカルセンター外観



「ヒーリングアート」のコンセプトに基づき、病院内に絵画を展示

大村博士の業績と絵画コレクションを展示

大村記念館

2012年11月1日に、大村博士の数々の研究業績や栄誉を顕彰するために、北里大学北本キャンパス内に「大村記念館」が開設されました。

大村博士らが発見した生物活性物質を生産する放線菌の電子顕微鏡写真や生物活性物質の分子模型、これまで受賞した国内外の賞状やメダル等を展示しています。

また、15年に受賞されたノーベル生理学・医学賞関連のパネル、王森然氏や岡田謙三氏の絵画など大村博士が収集した絵画（北里研究所大村美術品コレクション）をご覧ください。

祝日を除く月曜日・水曜日・金曜日の午前10時から午後4時まで無料で見学できます。



大村記念館外観



大村記念館大村博士業績展示



岡田謙三コレクション



王森然記念室

自然と調和する癒やしの空間

韭崎大村美術館

山梨県韭崎市の高台にある「韭崎大村美術館」は、大村博士が創設した美術館です。博士が地域への恩返しと文化振興を目的に2007年に開館し、自ら長年にわたり収集した多彩な作品を公開してきました。

展示は近代日本画や洋画、陶芸、工芸など幅広く、とくに女性画家による作品コレクションは全国的にも珍しく、女性芸術家の再評価を促す場として注目されてきました。館内の大きな窓からは南アルプスやハケ岳を望むことができ、芸術と自然を同時に楽しめる環境も魅力です。

大村博士は「人を癒やし、地域に根づく美術館」を理念に掲げ、作品収集だけでなく若手芸術家の育成や地域文化の発信にも力を注いできました。その思いを継ぐ形で、現在は韭崎市立の施設として運営され、公園内の施設としても整備されています。地元住民や観光客に広く親しまれ、韭崎市の文化拠点として存在感を高めています。

科学と芸術を結ぶ韭崎大村美術館は、博士の人間性を映す「もう一つの研究室」ともいえる存在です。今も訪れる人々に知的な刺激と安らぎを与え続けています。



韭崎大村美術館の外観



大村智記念館



企画展示室



The possible will be forever

ShinEtsu Group
長野電子工業株式会社

〒387-8555 千曲市屋代1393 TEL.026-261-3100 FAX.026-261-3131



やさしく触れていいですか。

elleair
エリエール



大王製紙株式会社

新聞用紙・出版用紙・印刷用紙・情報用紙
包装用紙・機能材・段ボール原紙・家庭用品

ニュービジネス紹介 高原クリニック イノベーティブスキャン

撮影直後に結果 即時通知できる理想のクリニックを

私は大学卒業後30年余り、画像診断医（放射線科医）として歩んできました。小児科研修医時代に、日本へMRIが導入されるというニュースを耳にしたことが転機となりました。小児科での母子とのやりとりは楽しく充実していましたが、理系出身の私は、その瞬間どうしてもMRIに携わりたいという思いを抑えられず、放射線科へ転向したのです。

勤務先は独協医科大学の小さな放射線科医局でした。本来であれば単純X線や胃透視、CT、血管撮影などを経験した後にMRIに携わるのが通例です。しかし規模が小さかったこともあり、熱意を汲んでいただき、幸運にもMRIを任されました。以来2年間、朝から晩までMRIに没頭する中で、「撮影技師としての経験」と「診断医としての視点」の両方を得ることができ、臨床に役立つ新しい撮影法を考案する基盤が築かれました。

拡散強調画像から広がる新しい医療

2004年には、MRIの拡散強調画像を応用して全身がんスクリーニングを可能にする方法（DWIBS法）を発表しました。これは、がん細胞の密度が正常組織より高い性質を利用し、病変の分布を描出するものです。いわば「放射線被ばくのないPET-CT」と言えるでしょう。造影MRIや造影CTが血流の豊富な部位を描き出すのに対し、DWIBSは細胞密度の高さを捉えるため、同様の部位を異なる視点で表現できます。

この成果は幸いにして1200回以上引用され、2020年には厚生労働省が前立腺がん骨転移の診療報酬加算として認可しました。厳しい施設要件のため実施可能な病院は100施設程度に限られますが、意外にも人間ドックでの利用が広まりました。「国に認められた」という事実が後押しし、自由診療の一環として注目を集めています。

即時説明の高いニーズ

大学病院では多くの先端MRI技術を駆使してきましたが、放射線科と患者さんとの距離を縮めることは難しいものでした。そこで「撮影直後に結果を伝えることで、より良い医療、特に早期診断を実現したい」との思いから、今年4月にクリニックを開院しました。

この即時説明を体験した実業家の堀江貴文さん（ホリエモン）が発信してくださったことで、YouTubeなどを見た多くの方が来院し、目指していた理想の医療が形になりつつあると感じています。実際にわかったことは、単に結果をすぐ伝える以上の意義があるということです。すなわち「それはどういう意味ですか」「今後どうしたらよいですか」といった疑問に即座に応えられる点が、極めて重要だと実感しました。診断と同時に次の方針を示せることは、医療における大きな前進だと思っています。今後も続け、寿命のある限り技術を伝えていきたいと考えています。

痛くない乳がん検診の実現

さらに2018年には、このDWIBS法を応用した「無痛MRI乳がん検診」を開始し、大学発ベンチャーとして株式会社ドゥイブス・サーチを設立しました。会社形態ではありますが「医は仁術」を旨とし、創設以来8年間無報酬で活動してきた結果、多くの信頼を得ることができました。現在は全国90病院と契約し、年間1万5000人の方に受診いただいています。

この検診は「痛くない・見られない」ことから、従来のマンモグラフィが苦痛で受けられなかった方や羞恥心から敬遠されていた方に支持されています。豊胸術後の方も受けやすく、多くの方が受診可能になりました。その成績は、がん発見率・陽性的中率ともに従来の5倍以上という驚くべきものです。受診率の低さが社会問題となっている乳がん検診において、一つの解決策となることを願っています。

世のため、人のため、国のために、余生を捧げてまいりたいと思います。



高原太郎院長

Takahara Clinic Innovative Scan

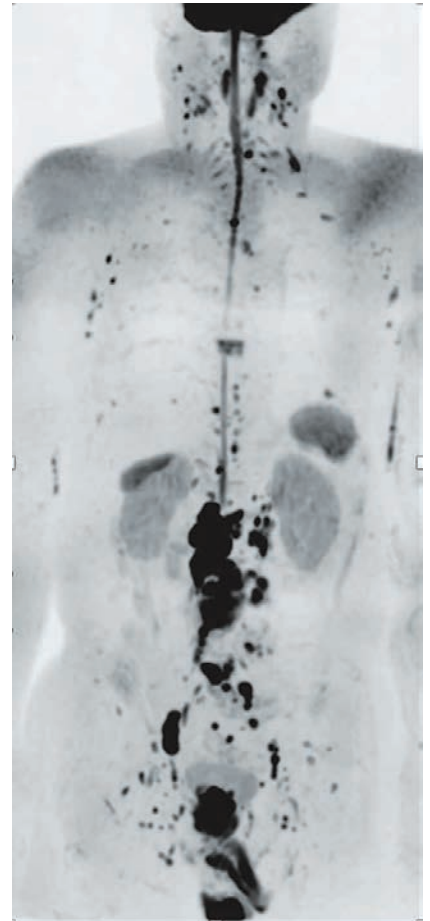
<法人概要>

法人名：一般社団法人ドゥイブス評議会

代表医師：高原太郎

所在地：東京都世田谷区宮坂3-20-19

URL：<https://takacli.jp/>



DWIBS法（MRI全身がんスクリーニング）



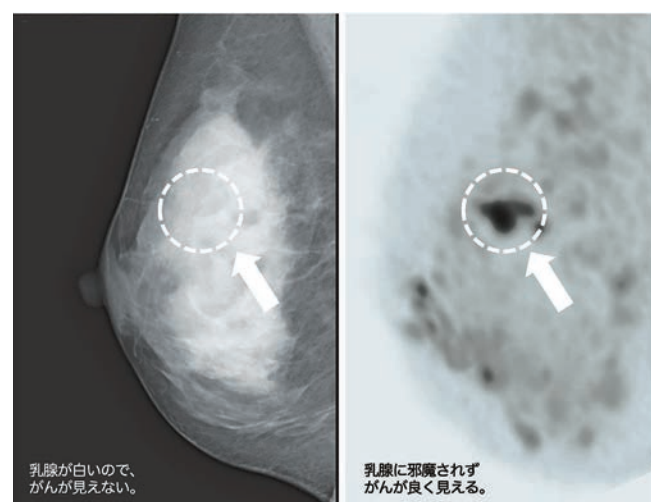
高原クリニック外観



ゴッホのひまわりで囲まれたMRI装置



衣服を来たままで受けられる、挟まないMRI乳がん検診



マンモグラフィ

無痛MRI乳がん検診

マンモグラフィと無痛MRI乳がん検診の比較（乳がん症例）

乳腺が白いので、がんが見えない。

乳腺に邪魔されず、がんが良く見える。

FEC 会員懇親会のご案内

11月21日 帝国ホテルで開催

会員の皆様の日頃のご支援に感謝し、2019年以来6年ぶりとなるFEC会員懇親会を下記の通り開催いたします。

日 時：11月21日（金）18時30分～20時30分（開場18時）

会 場：帝国ホテル本館 中2階「光の間」

当日は、2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智北里大学特別荣誉教授や船越健裕外務事務次官を来賓としてお迎えするほか、外交団長のマンリオ・カデロ駐日サンマリノ共和国大使をはじめ、FECの名誉会員でもある各国の駐日大使にもご出席いただく予定です。

また、日本の伝統的な大衆文化を代表する「江戸太神楽」の演舞も予定しています。

会員の皆様には別途ご招待状をお送りしますので、お申込みをお待ちしています。

ご不明な点がございましたら、事務局までお気軽にお問い合わせください。



2018年の会員懇親会の様子



歓談する会員ら 2019年



（左から）カデロ駐日サンマリノ大使、
金川会長、松澤理事長 2019年



来賓でスピーチをする
菅 健太郎外務副大臣—2017年



駐日EU大使を囲んで —2017年



各国駐日大使も出席 2018年

【江戸太神楽】東京都指定無形民俗文化財

太神楽は、獅子舞と曲芸を組み合わせた、日本の伝統的な芸能です。その起源は平安時代にさかのぼり、江戸時代に最盛期を迎えました。かつては神社の使者として全国を巡り、神々の名のもとに人々へ祝福を授け、護符を配るという重要な役割を担っていました。

太神楽の主要な流派のひとつに、「熱田派 丸一」があります。

この流派は17世紀以来、江戸（現在の東京）においても活動を続け、悪を祓い、幸運を招く儀式として人々を魅了してきました。



2018年、江戸太神楽の会



9枚輪の組取り



丸一仙翁社中獅子舞

Chemistry at Work

世界のインフラ整備。進化しつづける自動車や人工知能。

私たちの塩化ビニル樹脂、半導体シリコン、シリコーン、電子材料といった素材は、社会の発展を支え、暮らしを豊かにしています。

信越化学グループは、素材と技術で地球の未来に貢献していきます。



アフリカとの持続可能なパートナーシップ構築を再確認

TICAD 9 を訪問

FECの松沢聡常務理事らは、8月22日にパシフィコ横浜で開催された第9回アフリカ開発会議（TICAD 9）を訪問した＝写真左。TICAD（Tokyo International Conference on African Development）は、日本政府が主導し1993年より開催されている国際会議であり、アフリカ諸国の持続的な開発と国際社会との連携強化を目的としている。今回のTICAD 9では、「共創による未来の構築」をテーマに、官民・学を交えた多様な議論が展開された。

松沢常務理事らは、公式サイドイベントの一つであるシンポジウム「地域と世界をつなぐ教育エンパワメント：昭和女子大、東京農大によるタンザニアとの連携の試み」に出席した＝同右。会場では、バラカ・ハラン・ルヴァンダ駐日タンザニア連合共和国大使、坂東眞理子昭和女子大学総長らと挨拶を交わし、大学とアフリカ諸国との実践的な教育連携や人材育成の取り組みに関心を示した。

FECはこれまでも、日本企業や教育機関の技術力や人的資源を活かした国際交流の場を支援しており、TICAD 9を通じてアフリカとの持続可能なパートナ



ーシップ構築に向けた新たな可能性を再確認した。

今後も、民間外交の立場からアフリカ



諸国との相互理解と協力の深化を図り、日本の国際的プレゼンス強化に貢献していく方針である。

中垣喜彦電源開発株式会社 元代表取締役社長お別れの会に参列

FECの松澤建理事長は8月19日、帝国ホテルで行われた中垣喜彦電源開発株式会社元代表取締役社長のお別れの会に参列した＝写真。

中垣元社長はFEC日ベトナム文化経済委員会委員長として、日本とベトナムの関係促進のために尽力され、FECベトナム訪問団では2011年の第6次ベトナム訪問団から計8回にわたり団長を務めた。

お別れの会には多くの関係者が訪れ、故人の人柄と功績を偲びながら別れを惜しんだ。松澤理事長も生前のご厚誼に感謝の意を表し、静かに黙祷を捧げた。



離任の駐日アゼルバイジャン大使が来会



ギュルセル・イスマイルザーデ

駐日アゼルバイジャン共和国大使は9月16日、ご子息とともにFEC

C事務局を訪れ、松澤理事長らと会談した＝写真。今回の訪問は、大使の離任にあたっての挨拶として行われたもので、両氏はこれまでの友好関係を振り返るとともに今後の日本・アゼルバイジャン関係のさらなる発展について意見を交わした。

イスマイルザーデ大使は、2011年に駐日大使として初めて着任し、その後19年に一度本国に帰任してアゼルバイジャン外務省人事局長を務めたが、20年に再び駐日大使として日本に着任し、通算して長年にわたり日本とアゼルバイジャンの架け橋として尽力してきた。任期中は、FEC主催のビジネスフォーラムやアゼルバイジャン要人来日に際しての食事会など、多くの交流事業を通じてFECとの友好関係の強化に



貢献した。松澤理事長とは長年にわたって信頼関係を築いており、今回の会談でも互いの尽力に対する感謝の言葉が交わされた。

イスマイルザーデ大使は帰国後にアゼルバイジャン政府内の要職に就く予定であり、引き続き日本との関係維持と発展に努めていきたいとの意向を示した。

FEC 活動日誌

今後の催しのご案内

- ◆10月9日（木）11時30分～13時30分
第297回国際研究会
内 容：ニュージーランド・フォーラム
会 場：都内ニュージーランドレストラン
- ◆10月14日（火）14時～15時30分
第299回国際研究会
講 師：北岡伸一JICA特別顧問
テーマ：世界秩序の転換と日本の役割
会 場：国際文化会館

- ◆10月21日（火）14時～16時
第117回中国研究会
講 師：高原明生東京大学名誉教授
テーマ：習近平政権と中国の外交戦略
会 場：オンライン
- ◆11月21日（金）18時30分～20時30分
FEC会員懇親会
内 容：各国駐日大使、正会員、賛助会員、個人会員、特別会員等を招いての懇親会。大村智博士ご挨拶、「江戸太神楽」のアトラクション等
会 場：帝国ホテル

詳細、最新情報は本協会ホームページ（<https://www.fec-ais.com>）をご覧ください。事務局（電話03-3433-1122）にお問い合わせ下さい。いずれも定員に達し次第締め切りとさせていただきますので予めご了承下さい。

協会だより

【新名誉会員】



アンパイ・キンダヴォン氏（ラオス人民民主共和国大使） ロシアで国際関係学の学士号および修士号取得。

1989年外務省入省、90～94年在日ラオス

大使館勤務。その後、在韓国、在クウェート大使館勤務等を経て、アジア太平洋・アフリカ局長。駐ブルネイ大使、駐カンボジア大使を歴任後、2022年儀典局長。25年より駐日大使。

【新法人会員】

- ▷医療法人社団福祉会高須クリニック銀座院
- ▷日比谷クリニック

ご予約：0558-27-2111 <http://www.baykuro.co.jp> 静岡県下田市柿崎 4-1

CREATION with Cominix
<https://www.cominix.jp/>
ものづくりの生産性向上に貢献する専門商社